

No.294

2025年
3月号

さくら

図書館だより

(編集・発行)

宿毛市立坂本図書館

〒788-0001

宿毛市中央二丁目7番14号

☎ 0880-63-2654

FAX 0880-63-0155

《 展示のご案内 》

展示期間 3月27日(木)まで

★メイン展示

『新生活を応援する本』

今回の展示は

- ・卒業・入学
- ・ひとり暮らし・家事
- ・春がきた

というコーナーを設けました。

春からの新生活への期待と不安のある方、ぜひご覧ください。



●メイン展示図書(抜粋)

- 「こどもあんぜん図鑑」「いちねんせいえほん」
- 「いちねんせいになったあなたへ」「ぼくとがっこう」
- 「今さら聞けないひとり暮らしの超基本」
- 「いちばんわかりやすい家事のきほん大事典」
- 「がんばりすぎない家事の時短図鑑」
- 「一生の武器になる勉強法」「中学生の勉強大全」



雑誌・図書を差し上げます

保存年限を過ぎた雑誌や除籍した図書を差し上げます。

時間 10時～18時30分(土日祝は10時～18時)

場所 坂本図書館

文教センター ホワイエ



★サブ展示

『みんなで防災について考えよう』

昨年4月17日は宿毛市で震度6の地震が発生しました。能登の地震や台風・火事など災害が多い最近です。防災について学んでみませんか。防災グッズの展示もしていますよ。



●サブ展示図書(抜粋)

- 「読んでみよう!もしものときの防災ブックガイド」
- 「食料備蓄はじめてBOOK備蓄ノウハウ55」
- 「今日から始める家庭の防災計画」
- 「やってみた!いのちを守る64の防災活動」



特別展示

『小野梓と坂本嘉治馬』

3月2日(日)の第20回梓立祭にあわせて特別展示を実施しました。



3/1(土)には坂本嘉治馬様の御令孫坂本嘉廣様と奥様の喜久子様が来館されました。



読んでみませんか？

-新着図書のご案内-

(一般)

風待荘へようこそ

近藤 史恵 著
KADOKAWA

45歳で夫からいきなり離婚を切り出された眞夏。それまでの生活は一変し、先が見えない中、京都の小さなゲストハウス「風待荘」の手伝いをするに。しかし、誰かの妻や母親ではなく「個」として存在する状況に戸惑うばかりで…。

そんな眞夏を変えたのは、数々の出会いと京都の食べものだった。

1章読み進めるごとに元気が出てくる物語となっています。

(児童)

知ってそなえる 地震たいさくBOOK

久保 範明 著
メイツユニバーサルコンテンツ

近年、日本各地で頻発する地震。宿毛市に住む私たちの身近でも、今後30年以内に起こる確率が70～80%といわれている南海トラフ地震が危惧されています。その時、自分や家族を守るためにどんな行動を取れば良いのでしょうか？

日頃からの備えと対策を親子でシュミレーションしてみませんか？地震のメカニズムから遭遇した場所や状況に合わせた行動を紹介。「防災力」を高めるのにピッタリの1冊です。

(一般)

野草とハーブのレシピ

農山漁村文化協会 編
農山漁村文化協会

草だんご、よもぎ蒸しパン、たんぽぽコーヒーを作ってみませんか？

よもぎ、たんぽぽ、どくだみ等、花や草を使った料理やおやつ、お茶や化粧水等、いろいろなレシピを詰め込んだ一冊となっています。身近な野草で季節を感じながら作ってみてください。

(児童)

うさぎのおんがく

キエピノコ 著
白泉社

うさぎと暮らす著者が描く、読んでもどのページをめくっても、かわいさ抜群のほのぼの絵本です。

うさぎの特徴として、鳴かないことは有名ですが、日常生活の中の動作で音を奏でます。「くしくし」はごはんのあとに毛をきれいにする音。「だんだん」と足を踏み鳴らすのは怒っている音。かわいく長い耳やまんまるのしっぽは愛らしい要素がギュッと詰まっています。

※本の紹介文は、スタッフが作成しています。

演出というもの

山下量子

先日、宿毛市制70周年記念事業である石原良純氏の講演会を拝聴してきた。

テレビで見るとそのままの姿の本人が登場していて、お話もとても面白かった。家族に関する話や、芸能活動に関するお話、気象の面白さなど、盛りだくさんだった。

その中で、とても印象に残った話がある。

人はエネルギーを出す存在で、出すエネルギーが無くなると人は亡くなるのだ、というお話だ。

そして、役者さんは、エネルギーを出すことで、観客を魅了するのだという。歌舞伎などは、役者がエネルギーを出しあうことでエネルギーで会場を埋め尽くすのだと。そのため、坂東玉三郎さんなどは、「赤穂浪士を演じた際には、舞台を見終わった観客が劇場から出る時に、外で雪が降っているかのように感じられるほど、演技に観客を入り込ませなくてははいけない」とおっしゃるのだという。

赤穂浪士は、元禄14年に浅野内匠頭が切腹させられた事件に対し、忠義を守るために討ち入りを決行した47人の武士たちが仇を討ち果たしたものの、全員が切腹を命じられた悲しい話である。彼らの死は「忠臣蔵」で語られ、忠義の象徴となった。

討ち入りの日は12月14日。その日は、雪が降り積もっていたため、月明かりで提灯が無くても歩けたとか、雪のおかげで討ち入りの際に足音に気づかれなかった、という話も聞いたことがある。その大切な要素である雪を、観客の心に深く染み渡らせる・・・それがプロの役者なのだ、そう思った。

劇場に入ったら現実を忘れてもらおう、それをモットーにされている坂東玉三郎らしいエピソードだと思った。

エネルギーは目に見えない。でも、なんらかで感じ取るものなのだろう。

この話を聞いたときに、黒澤明の話を思い出した。黒澤明は映画のセット作りにおいて、ダンスの中身まできちんと入れることを徹底していたことで有名だった。彼は、カメラに映らない部分であっても必ずこだわり、「赤ひげ」の撮影時には、引き出しの中にも実際に当時の医療器具や薬瓶を入れるよう指示していたという。

その徹底さが、役者をもその役柄に没頭させ、それを見る視聴者も、その世界に没頭するのだろう。ダンスの中身は目に見えないが、そこにあるものが、放つエネルギーがあるのかもしれない。そう思った。

自分も日本舞踊を踊ったりすることがあるので、観客を引き込めるほどの臨場感やエネルギーを出せる役者になってみたいものだ、そう思った。

演技といえば、最近、四万十市に行った際に、しまんとびあにて、演歌漫画「三山ひろし物語」がロビーにおかれているのを見かけて、ついこのめりこんで読んでしまった。

三山ひろしが心から演歌を愛していることを感じた内容だった。そこには、三山ひろしが、作曲家の中村典正のもと修行する話も書かれてあった。その中で、三山ひろしが「悲しい歌をなぜ、笑って歌うのですか？」といった問いが出ていた。その答えは、「悲しいものを悲しそうに歌うのは、ただの自己満足だ。悲しいものを、笑って歌うからこそ、観客の心に響くのだ」というような内容が書かれてあった。

なるほどな、それこそが演出なんだな、そう思った。

作曲家も舞台役者も、映画の監督も、歌手も、表現者は常に、観客、というものを丁寧にとらえ、いや、真正面から向かって、演出をして、作品作りをしているのだろう。

舞台演出というのと、やはり、能楽の大成者である観阿弥・世阿弥を思い出す。「秘すれば花」という彼らの概念は、すべてを明示するのではなく、観客の想像力に委ねることで、より深い感動を生み出すという考えだった。

坂東玉三郎も観阿弥・世阿弥も、共通なのは、観客を飽きさせない工夫をしながらも、その演出は、陰に厳しい稽古があつてこそという所なのだろう。

ここでまた思い出すが、「オフィーリアの死」だ。「ハムレット」の劇中で、ガートルード王妃によって語られるその死は、詩的に最も美しい死を描いている、と言う人もいる。

「柳の枝が泉の上に張り出し、彼女がそこに登った時、折れて落ちてしまった。衣が広がり、しばらくの間、水に浮かびながら歌を歌っていたが、やがて水を吸って沈んでしまった」

『ハムレット』第四幕第七場

最後まで歌を歌っていた、その表現がまた、なんだか、空想をかき立てるのだ。

だからこそ、この情景を多くの芸術家が絵画のテーマにしたのだと思う。

ちなみに私は、ジョン・エヴァレット・ミレーの「オフィーリア」が、深みがあつて、とても好きだ。最寄りでは、鳴門にある大塚国際美術館で、この陶板名画が展示されているはずなので、見たことのない方は、是非、見てみてほしい。

昔から現代まで、語り継がれる名作の1シーンは、演出家の込められたエネルギーが、時を超えて残っているのかもしれない。

～新着図書のご紹介～

一般図書



- 0 「生成AIの脅威」
読売新聞「情報偏食」取材班 著
- 0 「Excel 2024 やさしい教科書」
門脇 香奈子 著
- 1 「明けない夜があるのなら夜更かしを楽しめばいい」
よでい 著
- 1 「七十代、ソロ活女子の四国遍路」柳井 悦子 著
- 2 「早稲田大学の学祖小野梓」大日方 純夫 著
- 2 「昭和100年地図帳」平凡社 編
- 3 「どうして「体育嫌い」なんだろう」
井谷 恵子・井谷 聡子・関 めぐみ・三上 純 著
- 3 「地下鉄サリン事件はなぜ防げなかったのか」
垣見 隆 著
- 4 「カラダを温めて冷えをとる！温活365日」
石原 新菜 著
- 4 「だから、お酒をやめました。」根岸 康雄 著
- 5 「デパ地下みたいなおちそうサンドイッチ」北嶋 佳奈 著
- 8 「図解で学ぶめくるめく日本語史の世界」今野 真二 著
- 9 「謎ときエドガー・アラン・ポー」竹内 康浩 著
- 9 「戦国千手読み」堺屋 太一 著
- 9 「猫の刻参り」三島屋変調百物語拾之続 宮部 みゆき 著
- 9 「C線上のアリア」湊 かなえ 著
- 9 「バベル」上・下 R. F. クアン 著

※左側の数字は図書の分類を表しています。
0...総記、1...哲学、2...歴史、3...社会科学、4...自然科学
5...技術、6...産業、7...芸術、8...言語、9...文学

児童図書



- 「ほぼねことねこ図鑑」今泉 忠明 監修
- 「十年屋」8 廣嶋 玲子 作
- 「工場大ずかん」うえたに夫婦 作
- 「防災の超図鑑」荒木 健太郎 著
- 「はじめての国宝」青柳 正規 監修
- 「おさるのしま」いとう ひろし 作・絵
- 「つくしちゃんとながれぼし」いとう みく 作
- 「ヤービと氷獣」梨木 香歩 著
- 「こども「友だちとのつきあい方」」
相川 充 監修・バウンド 著

絵本



- 「ここは、ようかいチビッコえん」
富安 陽子 文・大島 妙子 絵
- 「やくそく」那須 正幹 さく・武田 美穂 え
- 「チリとチリリさくらのおはなし」どい かや 作
- 「あのひのきもち」かさい まり 作
- 「えんちょうせんせいのイス」
筒井 頼子 さく・種村 有希子 え
- 「わたしはBIG!」ワシュティ ハリソン 作
- 「なにかいいことあった？」ミーシャ アーチャー 作

★このほかにもたくさん図書が入っております。
図書館ホームページでは、新着図書一覧が検索
できますので、そちらもぜひご覧ください。

【新着図書一覧検索】

3月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

4月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

開館日時 火～金 10:00～18:30 土・日・祝 10:00～18:00

ホームページ <https://www.city.sukumo.kochi.jp/docs-25/p010805.html>

メールアドレス tosyo@city.sukumo.lg.jp

は休館日



【図書館HP】

